

令和５年度 府立亀岡高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）計画段階

学校経営方針		昨年度の成果と課題			本年度学校経営の重点	
◆学校経営方針		◆昨年度の成果と課題 (成果) ・大学や自治体等と連携することで充実したものとなり、生徒の多様な進路に対応することが出来た。 ・普通科、探究文理科それぞれの取組の成果を学校全体に広げることができた。 ・学校公式HPの内容の改善と、Twitter等での生徒の活動の発信に努め、更新頻度を上げることができた。 ・教職員間の連携を密にすることで、生徒理解の促進、組織的な支援体制の充実を図ることができた。 ・新学習指導要領及び観点別評価について、評価の在り方等に関する研究を継続できた。 ・個別最適化の進路指導の実現に向け、校内体制の確立を図ることができた。 ・文化祭を生徒の行動制限がない形で実施し、生徒が主体的に行動し、行事を創造し協働する力を高めることができた。 ・人権学習では時代の変化に合わせて更新させながら、工夫・改善して実施した。 ・施設等の破損箇所・不良箇所について、教職員間で連携し、スピード感をもって修繕に努めるとともに感染症対策を図りながら、安心・安全な教育環境の維持管理に努めることができた。 (課題) ・探究文理科と普通科の活動の共有を継続して行い、互いに刺激を受けることで次年度の活動をさらに発展させる。 ・主体的に学び続ける姿勢を育成し、学力の向上に結び付け、キャリア意識の視野を広げる。 ・主体的・対話的で深い学びをより一層進めるための授業の在り方について、さらなる議論や協議、取組を進める。 ・Can-Doリスト3級の達成率をさらに達成率を向上させる取組を工夫する。			◆本年度学校経営の重点 ◇高い人権意識に基づく教育活動の推進 ・自他の生命や人権、多様性を尊重する意識や態度の育成 かけがえのない存在である自他の生命や人権を尊重する意識と行動 自分は一人ではなく、支え合っていることの理解 様々な背景を持つ他者への理解 多様な人となつがる力 ・あらゆる場面で一人一人を大切にす指導の実践 すべての教職員の高い人権感覚 寄り添う姿勢 ささいな変化に対する気付きと情報共有 配慮を要する生徒への適切な支援 課題解決のための家庭や地域、関係機関との積極的連携 ◇生涯を自らの力で豊かに生きることができる力の育成 ・社会に通じる力の育成 礼儀・健康的生活習慣・規範意識 自己肯定感 仲間と共に高め合い、協働する姿勢 挑戦を応援する雰囲気 学校行事や部活動等への積極的参加 ジェネリックスキルの取組 Can-Do リストの活用 すべての教職員によるあらゆる場面での生徒指導、進路指導、人権教育の視点に基づく指導実践 質の高い授業、学びに向かう力や主体的に学び考える力、探究的な学びを進める指導の実践 指導方法等の工夫改善 観点別評価の研究 タブレット等の ICT の効果的活用 教科会議の充実 探究活動の普通科への広まり 外部人材(機関)の効果的活用 教育と学育のバランス ・自らの将来に目を向ける取組、目標実現のための情報提供や進路指導の実践 キャリア意識の高揚 新たな人や物との出会い 生徒・保護者への幅広い進路情報の提供 努力や挑戦を支える雰囲気・体制の構築 ◇教育環境の充実 ・安心・安全な教育環境の構築・整備 ・本校への理解の深化のための特色ある学びや取組、活動状況の積極的広報 ・教職員の働き方改革をねらいとした業務の精選 ICT機器の効果的活用 既存業務の見直しや会議の精選 教職員の協働意識	
評価領域	重 点 目 標		具体的方策	評価	成果と課題	
組織・運営	魅力ある学校づくり	1	各学科、専攻の特徴を活かした高大連携、地域連携等の取組を充実させる。			
		2	探究文理科の取組を工夫・充実させ、学校全体の探究活動の幅をさらに広げる。			
		3	タブレットの効果的な活用の研究を行う。			
	信頼される学校づくり	4	Web、SNSなどを利用して生徒の学びの様子を発信し、広報活動を効果的に行う。			
		5	家庭や地域、関係機関との連携を図り、個々の生徒が抱える課題の把握やきめ細かな指導を組織的に行う。			
教育課程 学習指導	確かな学力とジェネ リックスキルの育成	6	日々の授業を通して、自ら進んで学習に取り組む姿勢を育成し、一人一人の学力向上につなげる。			
		7	新学習指導要領に伴う授業や考査、円滑な評価を行う。			
		8	「ジェネリックスキル」の取組を充実させて、全生徒が卒業時にCan-Doリスト3級を達成する。			
進路指導 キャリア教育	希望進路の実現	9	3年間を通したキャリア教育の取組を工夫し、生徒の主体性と自律性を育み、学び続ける生徒集団の実現を図る。			
	キャリア教育の充実	10	各学科、専攻の特徴に応じた組織的・計画的な進路指導を充実させることで、生徒の進路実現の可能性を広げる。			
生徒指導 人権教育	学校行事、部活動等 の充実	11	部活動への積極的参加を通して、健全な心身の発達を目指す。			
		12	体育・スポーツ活動や芸術文化活動の活性化と学校行事及び特別活動の充実を図る。			
	生徒の自立・自律	13	「自立し、ともに学び続ける(対話・挑戦・創造)」生徒集団の育成に向けて、スモールステップの目標設定と評価を繰り返すことで、その実現を図る。			
		14	学校行事の企画や運営に生徒が主体的に参加できるようより一層の工夫を図り、生徒のコンピテンシーの向上につなげる。			
		15	成年年齢引き下げにより、社会人としての自覚と責任を一層意識させる指導を行う。			
	豊かな人間性の涵養	16	自他の生命や人権の尊重を基盤とした正しい判断力と実践力の育成に努める。			
		17	人権学習について、方法等を工夫改善し、人権問題を自らの課題として捉え、解決に向けて実践する資質・能力を育成する。			
	教職員の意識向上	18	高い人権意識に基づく教育活動を実現するために、教職員研修を充実させ、人権意識の高揚を図る。			
	健康・環境 美化	生徒の意識向上	19	5類移行後の新型コロナウイルス感染症対策や危機管理に関して、生徒が意識的に対策を講じるよう啓発活動を充実させる。		
20			健康診断、経過観察、事後指導を充実させ、生徒の健康管理、生活習慣の改善に努める。			
教育環境 の整備	安心・安全の実現	21	清潔な学習環境を保つ清掃・衛生管理を進める。			
		22	常日頃より施設・設備の維持管理に努め、安心・安全な学校作りを進める。			
	ICT機器導入と管理	23	タブレット導入を含め、高度化するICT機器の活用を協力して進め、管理や運用ルール等、ネットワークの維持のためのより良い体制の構築を目指す。			
研究指定等	府立高校特色化事業(スーパーサイエンスネットワーク京都校)、高校生伝統文化事業(京の文化継承・価値創造推進校)					
評価	A:十分達成できている(目標以上の成果が得られた) B:ほぼ達成できている(ほぼ目標どりの成果が得られた) C:達成できているとはいえない(成果はあったが、目標に達していない) D:ほとんど達成できていない(ほとんど成果がなかった)					
学校関係者評価委員による評価						
次年度に向けた改善の方向性						